



ノロウイルスについて

2013.1.21

★ ノロウイルスとは

昨年末、ノロウイルスの集団感染が相次ぎました。横浜市や松山市、宮崎市などの病院でノロウイルスが原因とみられる感染性胃腸炎によって100人以上の集団感染があり、死者も出ました。これは過去最多だった2006年に次ぐ勢いです。国立感染症研究所の調査によると12月をピークに減少しつつありますが、流行は持続するとのことです。流行の背景にはウイルスの遺伝子変異が関係しています。変異したウイルスは、北海道や大阪・新潟で発生した食中毒の患者の便から検出されました。さらに全国28都道府県で複数タイプの遺伝子変異ウイルスが確認されています。

ノロウイルスは冬場に激しい下痢や嘔吐を伴う感染性胃腸炎を引き起こします。感染者の嘔吐物や便を処理する際に手指に付着したウイルスが口から体内に侵入したり、空気感染によって感染し異常に増殖するウイルスで、現在ワクチンや治療法は見つかっていません。

★ 高齢者は要注意

ノロウイルスへの抵抗力には個人差があります。ですから感染しても症状が現れず、軽い下痢程度で済んでしまう患者が、自覚がないまま感染を拡大させてしまう場合もあります。実際、ノロウイルスによる食中毒が起きた飲食店の従業員を調査したところ、下痢や嘔吐の症状がない人のうち7%の便中からノロウイルスが検出されています。横浜の病院では発症した11人からノロウイルスが検出され、うち4人が死亡しました。いずれも高齢で寝たきりの患者でした。看護していたケースワーカーや職員など、他に72人の感染者がいましたが、こちらは軽症で済んでいます。宮崎県の例では高齢の入院患者6人が亡くなりました。うち1人は簡易検査で陽性でしたが、他の5人は簡易検査では陰性だったとのことです。

ノロウイルスは加熱が不十分な牡蠣などの貝類（特に二枚貝）に存在し、10個以上あれば感染が可能です。患者の便や嘔吐物などから感染しますが、耳かき程度の感染便に1億個のノロウイルスが存在します。酸に対しては抵抗力が強いので胃酸でも死にません。特徴となる症状は激しい下痢や嘔吐で、10日以上も続くことがあります。発熱はほとんどなく、通常なら1～2日で自然に治り、重症化することはありません。ところが高齢者では嘔吐物を喉に詰まらせ窒息したり、細菌が肺に入り誤嚥（ごえん）性肺炎を引き起こして死亡することもあります。病院や老人ホームでは、床に飛散した嘔吐物や便などに触れた手や、飛沫したウイルスから職員や患者が感染し、集団感染につながるリスクが高くなります。

★ 予防するには

予防するには、トイレの後や食事の前に流水と石鹼でしっかり手を洗うことや、便や嘔吐物を処理する際に塩素系漂白剤で消毒することです。拭き取ったタオルや雑巾、衣類なども水洗いの後、塩素漂白剤で消毒しましょう。また各所にアルコール消毒の器具が設けられていますが、ノロウイルスに対しては効果が期待できないので注意しましょう。調理器具や食品に付着したウイルスは85℃以上で1分以上熱処理することで死滅します。乾燥も大敵なので加湿器などを使って空気中のウイルスの飛散を防ぐことも大切です。

感染した場合、乳幼児や高齢者は脱水症状を起こしやすいので、塩分や糖分を含み、ミネラル成分が豊富な飲料水を摂取するようにしましょう。下痢止め薬はウイルスの排泄を妨げるので飲まないようにして、最終的には医師の診断に従いましょう。



石鹼で
手を洗おう!!